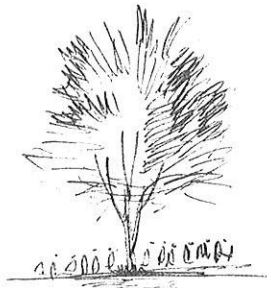


# 光の子



No.100 2002. 11. 1

- わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしたことなのである。(マタイによる福音書)



「お兄ちゃん がんばって！」

え・中島英子

「旅の途中」

ボンボンダリヤ一歩拾ひし子にはづむ

旅の途中を草笛のよくひびく

豊年の風にふくらむチマチヨゴリ

星涼しくて静ひし後の空す

ひぐらしに一人乗せたる渡舟かな

ハルモニが元気で赤い唐辛子

月見草だれかが待つてゐるやうな

黛 まどか

(「ハッピーバースデー」主宰)

# 「光の子」100号の発行で思うこと

理事長 飯田 進

本誌「光の子」の発行が、一〇〇号代に入ったことを知り、第一号がいつ発行されたか判りませんがよくここまで続けて来たものと、あらためて、菅原施設長のリーダーシップを中心に編集スタッフたちの「共感性」、「頑張り」と並々ならぬ努力に敬意を表したいと思います。

思い起こしてみますと、「光の子どもの家」開設当時、施設を取り巻いていた数々の苦難や障害に対し、多くの理解者を得て一致して危機を乗り越えることが出来たのは、真実のこもった情報の伝達が大きな力の要因となったからではないでしょうか。そういった意味で、「光の子」の影響力は大きかったのではないかと思います。

「光の子」は現在、約八〇〇人の方々に、年間六回配布されています。

考えてみますと、施設の協力者の方々と施設側との交流の手段の一つは、本紙のような定期的な刊行物によるものが多いのではないのでしょうか。施設によっては、事業計画・予算や事業報告・決算等を掲載するところが多くなっているようです。「情報公開」もさることながら、施設の活動を協力者や関係者に納得させるという重要な機能を持っています。

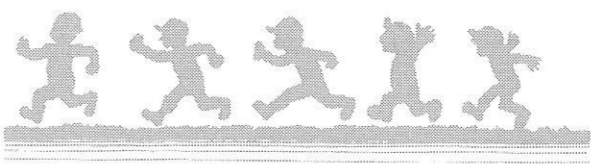
す。

協力者への応答を実践している、ある二人の方のことを思い出します。

最初の一人は今から約二〇数年前の頃だったと思います。N先生が、まだご健在の頃に実際に目撃したことです。N先生は、ご高齢ではありましたがお元気で、現役の著名なソーシャルワーカーであり牧師でした。偶然、機会を得て東南アジア四ヶ国の社会福祉施設への訪問研修にご一緒した時のことです。ホテルの部屋はN先生との同室でした。先生はホテルにチェック・インする度に、吃驚するくらい大量の絵はがきを購入し、自由時間に何処にも出掛けられないで、絵はがきに何か書いておられる様子を不思議に思い尋ねました。すると、「施設にいと多忙なので、こうした旅行中時間を見つけては、私の仕事を理解し協力してくれている多くの人たちに、お礼と近況報告をしているのです」と説明しながら、せつせとペンを走らせていた姿を、なぜか時々思い出します。

もう一人は、オーストラリア、ピクトリア州メルボルン市に所存するST. JOHN'S HOMES FOR BOY S & GIRLS 法人のエリス施設長 Ian Ellis 氏です。一九八一年（昭和五六年）、資生堂社会福祉事業財

団の海外研修に参加した折、施設の責任者として何が一番大切か尋ねる機会がありました。即座に返ってきた言葉が「法人の活動を理解し、支援してくれている一人一人の協力者への感謝と施設の近況報告にサインすることだ」でした。年間約三万通の札状に心をこめてサインをしているということでした。年間予算の約四〇〜三〇%を自己調達しなければならぬので、一人一人の協力者が大切であるとの説明でした。先駆的、開拓的な福祉活動を次々と展開している法人の力の根源を見た思いがしました。それにひきかえ、措置費に依存し、自己資金の調達に怠慢な己を強く思い知らされたのでした。



## エッセイ

### 六茶庵四戒

「六茶庵四戒。」立派なタイトルを考えたいものである。我ながら感心したくなってくる。

ところで、六茶庵とは一体何か。どこか著名な方の茶室か。そんなものではない。

六茶庵には二通りの読み方がある。一つは「むっさん」であり、もう一つの読み方は「むっちゃん」である。

何の事はない。これは私自身である。私は子どもの頃から「むっさん」と呼ばれていた。小学時代からの友達は、みんな「むっさん」と呼んでくれる。この呼ばれ方は好きである。又、最近「むっちゃん」と呼ばれる事もある。知らない人が「むっちゃん」と聞くと、余程可愛い、あどけない子どもが現れるかと期待するかも知れない。しかし、その期待は完全に裏切られる事になる。

そうそう。むっさんの四戒とは何か。これは、私が私自身に与えた四つの戒めの事である。

私は、特別に宴会好きというのではないが、年末や年始などに行われる或る程度気心の知れた人達と飲んだり食べたりするのは、嫌いではない。そこで、酒が入ってくるにしたがって、ついつい

嬉しくなってしまう、調子に乗って食べ過ぎ飲み過ぎ、しゃべり過ぎふざけ過ぎ

てしまい、翌日に大後悔である。その反省の上に立って私自身を戒めるために作ったのが次の四戒である。五戒とか十戒となると少々息苦しくなると思われるので、一応四戒だけにしてみました。

六茶庵四戒

- 一、食べ過ぎないこと
- 一、飲み過ぎないこと
- 一、しゃべり過ぎないこと
- 一、ふざけ過ぎないこと

私は、この四戒を大きめな紙に書いて机の前に下げ、毎日見られるようにして、心の中にしっかりと刻み込んだ。これからは、決して、自分で作った戒めを破ってはならない。これを守ることによって、余計な反省も後悔もしなくて済むのである。そうすれば、どんなに気が楽な事か。

私の決心が相当に固まってから何ヶ月か後に、いよいよこれを実践すべき機会が訪れた。職場の関係の宴会があったのである。目の前に並んだ料理類も、これまでのようにむやみに食べないようにした。酒をすすめられても、良い気に

なつてひよいひよい受けないようにした。何しろ四つの戒めが頭の中にある。そうやすやすと流されることはいけない事なのである。

そのうちに、まわりの人達は次第に調子が出てきた。わいわい騒ぐ。中には、おもしろい手品をやってみせてみんなを感心させたりして大受けの人もいる。なかなか楽しい。カラオケが始まる。自分の得意の曲を歌って拍手を浴びている。しかし私は、冷静である。何しろ、ふざけ過ぎてはいけないのである。男女のペアが現れる。仲々息が合っている。「麦畑」という歌だったか、二人とも大いにおどけて「おれの嫁になんねえか。」とか、「おらも前からマツツアンのこと好きだと思ってた」とか、拍手喝采を浴びている。酒もあまり入っていない冷静な私には、別におもしろくもない。ひょっとしたらあの二人、おどけながらお互いの本心を告白し合ってるんじゃないかなどと考えている。

「どうですか一曲」と私もすすめられた。小さいカードを渡されたが、「まあまあ」とあっさり断つてしまう。いつもなら「待ってました」とばかり出ていって歌うところだ。「どうしたの今日は、調子が悪いの？」と聞かれてしまう。「いや別に、今日はね、まあまあ……。」と断つてしまう。今日はね、と言ったが、実は今日だけではなく、これからずっと

余り調子に乗ってしゃべり過ぎたり、ふざけ過ぎたりしない決意なのである。回りの人たちとも、静かに当たり障りのない話をしていく。

会場はすっかり盛り上がり、誰も彼も陽気で楽しそうである。ビールを注ぎ合う人、大声でしゃべる人、演歌も出、踊り出すペアも現れる。

しかし私は、あくまでも自分の作った四戒を守り通す。決して食べ過ぎないし飲み過ぎなもしない。もち論しゃべり過ぎもふざけ過ぎもしない。そして、誰よりも早く席を立てて家に帰ってきた。家に着いて、先ず空腹である事に気付いた。そして、一人でカンビールを飲み、インスタントラーメンを食べた。しかし、何と倦びしいことか。私は私自身で作った四つの戒めを完璧に守り抜いたのだが、空しさと後悔だけが残った。あれ程強く決意したのに。

六茶庵四戒。私はこれを見直す事にした。見直しではだめだ、凍結である。いや破棄する事にしよう。

ここにきて私は、あの六茶庵四戒の立派な条文が現実から遊離したものである事を悟ったのである。そしてそうなる、急に気が楽になってきた。戒めから解放された。

そして又、新たな決意に燃えるのである。「ようし、又、以前と同じように元気にやるぞ!!」

編集委員の倉沢さんから「光の子」の原稿依頼のながきが来た。文面を見て驚いた。次回は一〇〇号だと言

「光の子」100号おめでとうございます

山形大学 仙道 富太郎

で五八回目、菅原施設長におだてられて、原稿を送る羽目に陥ってしまっ

も良いのになあと思う。何かに追われているがごとくに、心にゆとりのない自分を思う。

さて、この一〇〇号という響きは、私になにか一つの反省の時を与えて

しかし、青年期に悶々として生きる

が始まったと言える。

そして、私がたまに光の子どもの家を訪れるとき、そこで仕事を

子ども達による評価の高い閾値をクリアできるための必須の条件とは、

いる生きざまそのものなのであろう。

「光の子」一〇〇号の声に触発されて、種々考えさせていただいた。

そうであればなおさら、今日想いを致したことを忘れないように務めなければならぬ。

「光の子」二〇〇号へ向けての新たな歩みを期待して、稿を閉じさせていただきます。



2つの文化に生きる

34

日本キリスト教団東大宮教会 バーガー 京子

は専門学校生活をしている。

その中でも高校卒業後、アメリカに留学した萌季ちゃんとは何度がEメールを交わし、勉強をがんばっている

わたしはこ七七・八年、東大宮教会の教会学校の教師をさせていた

ところで我が家の子ども達は「光の子どもの家」設立以来、教会学校

校では社会、又は大学・専門学校へ行く光の子どもの家の十八才卒業生

中学三年の時から東久留米にある学校でアメリカの教育を受け、四年

現在、彼は英語と日本語の両方で大学の授業を受けている。日本語の

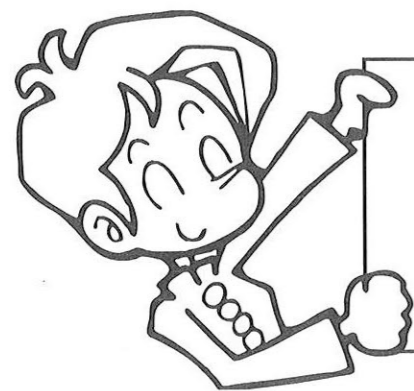
授業では四年間離れていた日本の教育の穴埋めをするかのように漢字

幼稚園・小学校・中学の途中まで日本の学校に通わせながら、夫が家

知らないが、二つの文化の良い所を生かしながら世の中に貢献して







# 背反律というしばりを越えるために



芹 沢 俊 介

ある一群の不登校の子どもの印象を人は、これ以上、もう一歩も前へ進めない状態と形容する。息切れという状態である。息切れという状態は、歩くか走るかした結果、生じてくる。ここから子どもは自分のペースで歩いたり走ったりできなかつたのだらう、という推測がはたらく。

だがこの頃少し、これらの不登校の子どもの印象を少し違うイメージで考えるようになった。確かに息切れしているのだから歩いたり、走ったりしている。ところがよく見ると彼ないし彼女は実はその場を一步も動いていないのだ。子どもが一步たりともその場所を動いていないのに、息切れが起きている、それがある一群の不登校の子どもたちから私が受けるイメージなのだ。

それはあたかも、作動するルームランナーの上に乗って、機械が動くのにあわせて歩くか走るかしないかぎり倒れてしまう、それゆえやむなく歩くか走るし

いうまでもなくこのメッセージは自己責任に重点が置かれている。キミはまだ責任を取れる年齢ではないだらう、だから自己決定など早すぎる。

こうしたメッセージを振り切つて自由に何かしたときの満足とその後の見放され感、孤独感、恐怖感、罪悪感を秤に乗せたと、き、それでも自由を選ぶ子どもはほとんどいない。こうして子どもたちは説得され、自分で自分を説得した結果、自分で始めないことを選ぶ。これがルームランナーに乗った子どもたちである。彼ら彼女らには息切れが待っている。

息切れし不登校・引きこもりになった子どもは、背反律を突きつけ、自分の行動にしばりをかけた親を後になつても責め、攻撃するといったことが起こるのだ。

柔順な子の周辺に膨大な層の、背反律を内側から食い破る動きをしようとする一群の子どもたちがいる。彼ら彼女らは背反律

ているのではないか、と思うようになったのだ。

このようなイメージに自分なりにリアリティを感じている。リアリティを感じる理由を述べてみたい。

ようやく世界に目を向け、自分の手と足で未知に触れようと始めた子どもに向けて発する大人のメッセージは常に次のようなニュアンスがこめられている。

- ・何をしてもいい、ただし人に迷惑をかけないように
- ・好きにしてい、ただしキミのしたことのしりぬぐいはごめんだからね

ここでの重点はどちらも後半の但し書きにかかっている。何をしてもいい、好きにしていといいながら、その言葉を但し書きが否定しているのである。子どもは大人の真のメッセージが後半の言葉にあることを感じ取る。こうして大人のメッセージは次のような背反性を帯びてくる。

に背かない道を探そうとする。つまり人に迷惑をかけないような、自由な、恣意的な行為の領域を探し、そこで行動を開始するのだ。自己責任が取れる場所、それが自分の体であり、自分の体を使うことだ。

髪の毛を染め、顔をキャンパスにし、手足を自由に飾り、耳や体や他の部分に穴を開ける。もっと過激になることもできる。自己の性的身体を自由に使うことだ。ひとところ援助交際という言葉が大流行したことを想い起こそう。

だが、これら一群の子どもたちも、背反律の外で何かを始めたいわけではない。背反律の内部で、背反律の欠陥を突いたふるまいに出ただけだ。

ではどう考えればいいのか。

「自己決定には自己責任がともなう」という言葉には、もう一つの回路があることに気づく。その回路はこのメッセージの後に「へしかし」をつけることで見えてくる。こうなる。

・何をしてもいいけど、何もしてはだめ。

この背反律を突きつけられたとき、子どもたちは、どうするのだろうか。

あらかじめ引かれた許容の限界線の内側の行動だけが許される。その範囲を超えてはなにもしない。彼ないし彼女は、自分の一步を始めることができず、やってみることがあっても、その気持ちだけが前のめりになったまま、やってみたい何かを始めることができない。もう少し緻密に述べてみよう。

柔順な子(いい子)は、大人のいうところの人・実は自分・に迷惑のかけない道がどこにあるかを敏感に察知し、大人の用意した道を選択する。選択と記したが、ほんとうは先ほどのメッセージに脅迫されて選ばされたにすぎない。

右の二つのメッセージをいまはやりの言葉で置き換えると以下のようなになるだらう。

- ・自己決定には自己責任がともなう

・自己決定には自己責任がともなう。しかし……

「へしかし」の後には具体的に「自己決定には自己責任がともなう」というメッセージを否定しているのではない、ただ棚上げしているだけだ。いまはキミの願望を生きてみるのが大切であつて、責任などというまだ起きていない不確かな未来のことを考えなくていいといっているのだ。ここには子どもをしばる背反律は現れていないことに注目しよう。

- ・思い切つてぶつかってみな、それで何か起きたら一緒に考えよう

この場合、「へしかし……」は「自己決定には自己責任がともなう」というメッセージを否定しているのではない、ただ棚上げしているだけだ。いまはキミの願望を生きてみるのが大切であつて、責任などというまだ起きていない不確かな未来のことを考えなくていいといっているのだ。ここには子どもをしばる背反律は現れていないことに注目しよう。

子どもたちが示すあらゆる行動表出の根柢は、大人が子どもに向けた何げないメッセージのなかにあるのである。

# プリズム

## 原田家日記

厳しかった夏の日差しも柔らかくなり、こちらでは収穫の終わった田圃に旅を控えた渡り鳥たちが舞い、秋らしい風景となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

原田家のメンバーにとって今年の夏は忘れることの出来ない出会いがありました。本格的な夏を前に、カリフォルニア大学からの研修生マリー・マッソンさんがやってきて十週間生活することとなりました。

解らない言葉や伝わらない思いなどが何となく構えてしまう私でしたが、子どもたちは言葉の壁をものともせず互いの距離を縮めています。田部兄弟と一緒に庭を駆け回り、宗和は似顔絵を描きあったり、藤耶と悠花はボードゲームを楽しみ、ヒロミ、由子、華美の中高生組は言葉やゲームを教えあい、小学生グループ八ヶ岳登山にも一緒に行き、登山中かずきを励まして頂上で素晴らしい風景を見ながら最高の昼食を楽しんだり。お盆に差し掛かる頃には原田家に

とっていきなくてはならない存在となっていました。

そんなかけがえのないマリーさんとの思い出深い夏でしたが、別れの時を迎えて子どもたちの表情にも寂しさが募りました。

しかし寂しい別れの後には素晴らしい出会いがありました。中学三年生の渡海賢君が相良グループにやって来て生活していくことになりました。田部兄弟、藤耶にとっては今年三月に卒園した耕太以来の兄的存在となります。兄弟はとても嬉しそうに「賢ちゃん」と甘え、抱っこなどをして受け容れてくれています。心強い仲間を加えた原田家。家のどこにでも笑顔があふれ、ほかほかと温かい暮らしを皆と一緒に創っていきたくです。 中川 昭雄



## 光の中で

佐藤家

毎日毎日ドジばかりの私も光の子どもと家と出会う二二年目の夏が過ぎ秋を迎えました。

秋はキラキラの夏を過ぎて、なんだか少し寂しくなるものです。子どもたちは、楽しかった夏休みの後にすぐやってきた運動会を力一杯がんばり、またひとまわり大きくなったように感じます。

子どもたちとの関わりは日常が一番大事ななだこにきて教わり、至るところで痛感します。毎日一緒にいると本当にいろんな感情が交差します。私などは自身が大人になりきれておらず、小学生の佳美とはよく「ミニゲンカ」をします。でも、数分後には、忘れてしまっています。そんな時ふと自分の小学校時代の母とのケンカを思い出して苦笑したりします。

日常を流すのではなく少しでも、楽しみ、かみしめ、一緒に振り返って笑えるような思い出をたくさんつくりたいです。 北谷 優佳

## 河のほとり

倉澤家

社会人一年生の亜希も、すっかり仕事に慣れ様々な勤務をこなす当直も任せられるようになりました。社会に出発、他人の役に立っている野宜江の成長ぶりを驚き、喜んでいる昨今です。

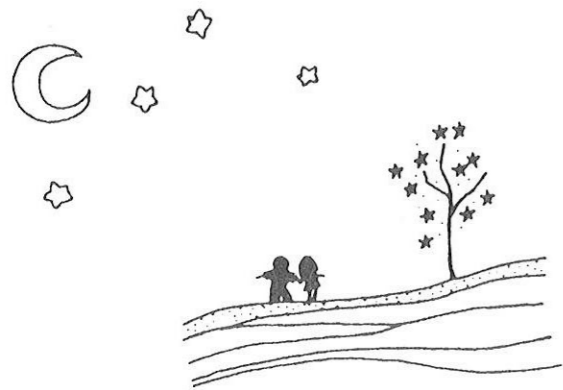
八月のある日、「倉ちゃんボーナスもらったよ。」と亜希がうれしそうに報告にきました。「良かったね。のぎが、がんばって働いていることが認められたってことだね。」と一緒に喜びました。

そして、あくる日の夜。仕事から帰宅した亜希が、「倉ちゃん、はい。」と封筒を差し出しました。「何？これ。」「倉ちゃんにはお世話になったから。ボーナス出たからあげる。」封筒の中には二万円が入っていました。ボーナスと言っても野宜江がもらってきたのは四万円です。四万円の半分を私にしてくれると言っています。

亜希の気持ちは本当にうれしいが、この先何があるかわからないのだから

ら、お金は大切にするようにと伝え、お金は返しました。 亜希にとって二万円は大金ですが、私に差し出してくれたこの二万円は、私にとって何百倍、何千倍、いえ、何物にもかえられないほど価値のある二万円だったと思っています。 九月からアパートで一人暮らしを始めた亜希。朝は必ず倉澤家に立ち寄り、夜は倉澤家で夕食と入浴を済ませてからアパートへ帰る。という未完成な一人暮らしですが、近くで見守りながら、自立の為に手伝いを続けたいと思っています。

倉澤 智子



## あかり窓

心理室から

憲也くんは兄弟の兄です。光の子どもの家では、兄弟は兄弟関係を意識した養育心がけていますが、どうしても手の掛かる下の子に目を向け、上の子に我慢をさせることが多いです。そのことへの反発心もあつたでしょうか。憲也くんは、絵が入賞した時に「おめでとう」と言った私に、「僕じゃないよ、楚緒だよ」と言いました。兄弟とひとくくりにしがちな職員へ精一杯の皮肉を言ったのだと思います。こんな思いを抱きながらも、憲也くんは弟を大事にしていました。それが最近、二人が共にいる姿が少しずつ減っているように思います。思春期にさしかかってきた憲也くんなので、自分というものを今まで以上に意識するようになってきたようです。思春期になると、子どもの心が揺れ、変化が生じ、関わる側は分かっているけどとまどい悩みます。これから兄弟を意識しないをするという、職員のさらに大きな仕事が始まっていきます。 積 みどり

## 子どもたちの季節

仙道家

暑くて長い夏休みも終わり、二期が始まりました。 皆様がいかお過ごしですか？

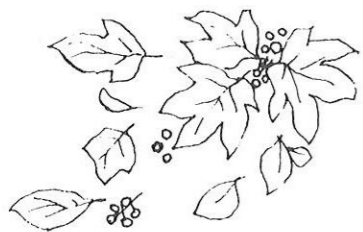
今年の夏休みは、三月末に入所した双子の妹の美世子、兄の要(四歳)、年長組の静一、小一の花子、小四の美季、高二の福子の小さい子ばかりの六人グループになったの初めての夏休みでした。正直、どんな夏休みになるか不安でしたが、ひとりひとりがお互いを気遣い、成長してくれたのでとても楽しい夏休みになりました。

まだまだ甘えたい気持ちの強い美季、花子ですが、年下の幼い子たちの面倒をよく見てくれました。私が「相手のことを考えなさい」と言うよりも美季、花子が実際に優しく接することで子ども達にきくと伝わるのだらうと思えました。二人はお盆に祖父宅に帰省し、帰ってきた時の顔は、今までよりもっとお姉さんになっていました。毎日毎日子どもは変化しているんだと実感した瞬間でした。

帰省が出来なかった子どもたちのために言うことで、仙道家では幼児の三名と、祐子さんグループの真里、和

哉と小西さん、相川さん、私の八人で秋田へ三泊四日の旅に出かけました。五人とも幼稚園以下の子どもだったのですが、小さいながらも年長さんの真里と静一が年下の子を見てくれようとしていました。田沢湖にドライブ、プール遊び、子ども達は心から喜び、楽しんでいました。「もっとこうだったらいいのに」とマイナスに考えがちな私に、今ある状況を楽しみ、それをもっと楽しくしようとしている(無意識だとは思いますが)子ども達を見て、生きていく上でとても大事な事を教えてもらいました。

一日一日成長している子ども達に助けてもらっていることに感謝しながら、二期も一緒に頑張っていきたいと思っています。





出 発

その6

菅原 哲男

光の子どもの家には現在三三名の子どもたちが暮らしていて、二名の入所依頼を抱えている。

児童虐待防止法が施行されて三年目を迎えようとしている。その影響もあってか、社会的養育を必要としている子どもたちは激増を続けている。その結果、都市圏ばかりではなく子どもたちの受け皿作りに公的施策は手一杯のようである。

萌季から八月の終わり頃、昨年一〇月に入学したインデアナポリス大学の英語コースをAクラスで終わることができそうだった。今後の相談もあり、少し疲れもしたので帰っていかという問い合わせの目印が来て、九月末に帰国している。

一回り大きくなり、大人になったな、と最初に感じた。やはり、可愛い子には旅、なのかも知れない。

ある夕、食事が終わりがけのんびりしていた時に、社会的養育を必要とする子どもたちが多くなっていることなどを話していた。そんなことから萌季のことに話が移っていった。虐待を被けた子どもが子どもを産むと、その子どもを虐待するように

なると言うことについてである。

「自分はそうなるんだっただら子どもなんか産めない。でも、結婚もしたいし子どもも生みたい。」食卓には中学生と高校生が二・三人いた。「そりゃそうだよ。結婚して、私なんかよりずっと幸せになって欲しいと思ってるよ。だから、高校も、大学も、専門学校へも行って欲しい、そのためだったらどんなことでもしようと思ってるんだよ。」と話した。「それと、虐待が続くこととどう関係あるの?」と萌季。

「うん、そこなんだが。自分が生まれたことがよかったですと自分を充分受け入れ、そして、自分でなければならぬことが絶対あるということも心から信じられるようになり、それが出来るようになった時、何とかその虐待の連鎖から抜け出せるように思っているんだよ。」うん、そうだろうな、なんか分かるような気がする。かなりきわどい話を、当たり前のよう出来るようになったこと、それが萌季の成長の証のように思えた。

自己受容が相当深いところまでさ

かのぼって可能になり、自分の物語が終始一貫できるようにならなければ、忌まわしい永久連鎖を突破することが出来ないだろうと考えている。

一九九七年児童福祉法が改正され、児童養護施設の目的に児童の自立支援が加えられたのであるが、児童の年齢規定は十八才のままである。

さて、自立とは、何を基準に考えるのだろうか。この法改正作業をした人たちは、本気で十八才で児童養護施設の子どもたちが自立を果たすことが出来るかと考えたのだろうか。

児童養護施設では、毎年高校など卒業して就職や進学などで施設を出て行くと、また新たにそこに子どもが入所してくる。定員三〇名で始めた光の子どもの家は、当時厚生省が認可する最少定員数だった。しかし、十八年目の半ばに達した今、八七名がここを利用してきている。その最高齢がやつと二十六才なのだ。どの子どもも未だ発展途上にあり、もう大丈夫などと言える者はまだ一人もいない。定員が八十七名に増えていることになるのである。

一九六〇年代には小此木啓吾が若者のモラトリアム論をいったが、最近平均寿命の上昇と共に、社会的自立の年齢も上昇していて、三五才成人論が言われるほどである。

とすれば、親や家族の援助を精神的にも経済的にも社会的にも得られない児童養護施設の子どもだけが、十八才で社会的自立を果たせと言うのは時代錯誤の感さえ否めない。

全国児童養護施設協議会で「児童養護施設の近未来像II」が検討され、課題の整理や中間報告が作成されているが、施設の適正規模と社会的自立の関係などに配慮が余り見えないことなどが気になっている。

自分が生まれ育ってきた道筋の中で、どんな困難や不条理があつたとしても、それらを可能な限り受け入れ、それらの困難や不条理が自分に必要な試練、課題であつたのであり、それらがなかったら今の自分はないのだというほどの自己受容がなされてはじめて自立へと向かうことが可能になると考える。

社会や他者にとって無くてはならない存在であり、誰も自分に代わることなど出来ない役割を果たすことが出来てこそ、自尊を伴った本来の自己実現となるだろう。

多くの萌季たちが、ここを出発してからが私たちの本来の働きであり、健康な社会人として生活を営むことが出来るような自立まで、支援を継続する責任が児童養護施設にあることは必定と考える。

現場から

続・光の子らしく

⑫

岩崎 まり子

もう、すっかり稲刈りも終わり、今は稲の代わりに白鷺が色を添えています。

皆様、いかがお過ごしですか。少し時期は遅れですが、夏の報告をさせていただきます。この夏も、たくさんの方々のお世話になりました。

「また、もともと先生(谷本先生)のおうち行く?」「あといくつ寝たら?」

五才の里奈ちゃんは、夏休み前から谷本先生宅での生活を楽しみにしていました。

谷本先生は、阿登久良山の麓のギャラリーを毎夏私達のために解放して下さいます。先生の描かれた絵

(お食事の方へ、申し訳ありません)

施設開設入所第一号の姉妹



妹はまた排泄が自立してなかった...



とろろがある日、妹がトイレでうんちできたとき、担当者はみんなにケーキ配って喜びを分かちました。



小学生のグループもそこをベースに登山をしました。一年生三名を加えた今年、五年生の憲也君と佳美ちゃんはリーダーとして、ベースにも気を配り、よく声を掛け、全員で山頂に到達。一人一人が、よく頑張ったと自信を持って言える体験となりました。

お盆期間中は家族の色が濃くなる時期で、とても気を使います。自分には帰る家はない」と初めから分かっている整緒くんが、「また僕達、海に行ける?」と不安そうに尋ねてきたとき、人の厚意を当たり前のよう受け取って欲しくないと思いつつ「頼んでるところだよ。あちらの都合もあるからね。」と答えました。毎年、この期間は湯河原の府川さんのお宅にお邪魔しているのです。帰省できない子どもたちは、こち

らが何もしなければ、また応えてくださる所がなければ次々と帰省していく子どもを見送るだけの日々になる子どもたちです。それを何とかしたいという思いに賛同し、協力して下さる方々がいて、欲待して下さるお陰で、この間子どもたちもあまりみじめな思いをせずに済み、むしろ羨ましがられるようなプログラムにできていることを心から感謝しています。

今、目の前にいる子どもたちは私の子どもではありませんし、この夏のお世話になった方々のお子さんでもありません。恐らく、この機関誌を読んで下さっている皆様のお子さんでもないでしょう。でも、彼らは今、ここに生まれさせられ、生かされ、「布団に寝られるだけで幸せ」とにっこり笑ったりするのです。彼らの存在を、現実を知ってしまった以上知らなかった頃には戻れません。抱えられるだけ抱え続けていくだけです。ただ、私達だけではとても出来ません。今、彼らが笑顔でいられるのも、たくさんの方々のお力添えのお陰です。どうぞ、今後も私達がより良く抱え続けていけるよう目を光らせていて下さい。感謝しつつ、収穫の秋へと歩を進めていきます。

# 第18回感謝の集いへ ようこそ

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2002年4月1日 ▶ 5月末日

4月

- 在籍児童数 幼児9名 小学生10名 中学生6名  
高校生等8名 計33名
- 1日 田奈愉宇(中2)入所原田家服部保育士担当  
相良由美・山口麻衣子保育士 小西剛史指導員就任
- 3日 新入学入園・進級祝をみんなで
- 4~6日 加須市光の子どもの家後援会(会長:新井規夫  
東京家政大教授)設立を草津で
- 8日 原道小学校3名 大利根中学校3名 県立高校2名入  
学
- 9日 ソフトバンクファイナンス株式会社より寄付金贈呈  
式が埼玉県知事室にて
- 10日 大利根藤幼稚園2名入園
- 19日 東京医科歯科大学院教授など6名来訪 虐待と家族  
問題に関するケーススタディを始める
- 22日 『第17回子どもまつり』実行委員会
- 24日 大利根町光の子どもの家後援会役員会
- 29日 菅野ドクター来訪

今月の物品寄贈者

大利根町斉藤ふとん店 小島 久喜市渋谷湾 加須市松本明子  
楮本清史 田川香代子 山野井礼子 斉藤敏江 コカコーラボト  
ラーズの各位様 ありがとうございます

5月

- 1日 富岡真由美調理師 相川裕之指導員就任
  - 3日 玉淀乳児院の杉田保育士来訪して3年前に入所した  
真里と半日遊んでくださる
  - 4日 第17回子どもまつり 地域の子どもたちや家族、  
学校の先生方など70名余が集まり楽しく
  - 8日 赤十字奉仕団・大利根町後援会合同の構内整備ご奉  
仕 感謝
  - 10日 TV朝日最終取材
  - 13日 TV朝日スーパーJチャンネルで放映 反響多数
  - 14日 原道小学校教師との懇談会
  - 16日 第8回バザー準備開始(加須・大利根後援会)
  - 20日 加須市児童民生委員会28名来訪 見学と情報交換
  - 24日 大利根町後援会総会
  - 25日 第66回理事会 2001年度報告・決算など
  - 26日 東大宮教会学校教師との懇談会
  - 29日 児童養護施設神愛ホーム新任職員研修会
- 今月の物品寄贈者: 樋口智子 仙道富士郎 吉沢伸昭 大橋清  
栄 戸石 横村すみ子 村田 山野井朝子 タカラブネ 栗原恵美  
子 豊国道江 スーパーミマス パチンコミマス 平井トリ 金  
子嘉男 柳沢米店 池端寛 大熊和子 須藤保 栗橋キリスト教  
会 星野敏恵 若柳慶雅 若柳慶久美の各位様 ☆本年度もこの  
ようにスタートできました お励ましに心から感謝(くら)

## 反 射 光

☆高く高く透き通る空がまぶしい季節になりました☆本紙も一〇〇号を重ねることが出来、これまでのお励ましお支えに心から感謝☆深く鋭い洞察で説得力豊かな活動を展開中の芹沢俊介氏より今号を記念して玉稿を頂き、また、新進気鋭の俳人黛まどか氏からも作品をお寄せいただき本紙を飾ることが出来ました。味読を☆育児や介護など家族機能が社会に移行し、家族関係が空洞化を続けます。この傾斜は今後も深まり、平衡までの回復力は見えません。更に社会的養育の場である児童養護施設などを利用しなければならぬ子どもたちは殖え続けるだろうことが予想されます☆施設を利用した子どもたちが成人し、納税者として自立することが何よりも優先すべきです☆米国の複数の州では既に家族機能と規範の回復のため妊産婦から三才までのサポートプログラムを開始しています☆政治や行政の優先課題の変更を強く求めます☆近未来を担う子どもたちを丁寧  
(哲)